

# HPLC・蛍光検出による簡便かつ迅速なポリコナゾール 血中濃度測定法とその患者適用

緒方憲太郎<sup>1)</sup> 永瀬 愛子<sup>2)</sup> 松本 太一<sup>2)</sup>  
原 周司<sup>2)</sup> 内山 将伸<sup>3)</sup> 自見 至郎<sup>4)</sup>  
高松 泰<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学薬学部実務薬剤学

<sup>2)</sup> 福岡大学薬学部医薬品情報学

<sup>3)</sup> 福岡大学病院薬剤部

<sup>4)</sup> 福岡大学医学部病態構造系総研

<sup>5)</sup> 福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科学

要旨：ポリコナゾールは侵襲性アスペルギルス症など難治性真菌感染症の治療薬として使用されているが、重篤な副作用として肝障害を引き起こす。よって、ポリコナゾールを有効かつ安全に使用するために薬物血中濃度測定モニタリング（therapeutic drug monitoring ;TDM）を行うことが推奨されている。今回、我々は簡便で迅速な血漿中ポリコナゾールの測定法を開発し、検証したので報告する。ポリコナゾールおよびナプロキセン（internal standard substance ; IS）は血漿中より酢酸エチルのみで抽出可能であり、カラムはCapcell Pak C18 MG column, 移動層はアセトニトリル：25mM リン酸塩緩衝液（pH 3.5）= 42：58（v/v）を用いた。日内および日間変動は変動係数それぞれ10.5%、11.0%以下であった。本測定法は簡便で迅速に血漿中ポリコナゾール濃度の測定が可能であり、日常分析法として極めて有用であると考えられる。

キーワード：ポリコナゾール, HPLC, 蛍光検出, 血漿中濃度